

# KDS NEWS

dosokai

2026 no.193



**第66回 定期総会開催 および  
2026年 桑沢新人賞 表彰式開催のお知らせ**

2026年5月30日(土)  
14:00~16:30  
JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F  
LIFORK 原宿 LOUNGE



# 桑沢デザイン研究所 同窓生の皆さまへ



今年も年に一度の同窓会定期総会の  
季節が巡ってまいりました。

当日は定期総会に引き続き「桑沢新人賞」の表彰式を行います。  
表彰式終了後には、親睦を深めるための交流会も予定しております。  
ぜひ、皆さまお誘い合わせのうえご来場ください。  
心よりお待ちしております。

2026年5月吉日

桑沢デザイン研究所同窓会 会長 八十島 博明

\*「桑沢賞」表彰式は、2023年の第30回開催を機に、  
隔年（2年に1度）の開催となりました。  
今回の第32回は、2027年5月に開催を予定しております。

## 同窓会委員 募集中

同窓会活動の企画・運営に携  
わる仲間を募集しています。  
ぜひ、新たな時代の同窓会活  
動と一緒に考えていきましょう。  
ご興味のある方は、同窓会事  
務局までご連絡ください!



## 第66回 定期総会開催 および 2026年 桑沢新人賞 表彰式開催のお知らせ

### 日時

2026年5月30日(土)

### 場所

JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F LIFORK 原宿 LOUNGE

14:00~14:30 第66回桑沢デザイン研究所同窓会定期総会  
2025年度の活動報告、会計報告、  
2026年度の活動方針、  
予算などの議事・報告を行います。

15:00~16:30 2026年桑沢新人賞表彰式  
表彰式終了後、交流会

## 2026年桑沢新人賞 (敬称略)

東りら (大日本タイゴ組合ゼミ)

周武泉 (祖父江慎ゼミ)

陳韋翰 (金山元太ゼミ)

徐嘉翊 (篠崎隆ゼミ)

門井未来 (真田岳彦ゼミ)

伊藤健 (夜間VD)

オギスナオ (夜間VD)

石崎遥 (夜間PD)



定期総会開催 (於: LIFORK 原宿 LOUNGE)



新人賞表彰式 (於: LIFORK 原宿 LOUNGE)

# 活動報告・会計報告（速報）

## 2025年（令和7）年度活動報告

### 2025年

- 4月25日（金）同窓会ニュース192号発行
- 5月31日（土）第65回同窓会定期総会および  
第31回[2025]桑沢賞表彰式の開催  
（於：WITH HARAJUKU HALL）
- 6月7日（土）桑沢デザイン研究所主催のプレ夏期講座に  
講師として参加  
体験講座「はじめてのデッサン」
- 7月5日（土）体験講座「はじめての色彩構成」
- 8月2日（土）オープンキャンパスに参加
- 8月25日（月）～29日（金）  
夏期デザイン講座開催（於：桑沢校舎）
- 10月11日（土）～12日（日）  
「桑沢祭2025」  
ZINEワークショップ/  
「MMA」OBOGフリーマーケット開催

### 2026年

- 2月27日（金）～3月1日（日）  
卒業生作品展「桑沢2026」に協賛
- 2月28日（土）2026年桑沢新人賞選考会  
（於：アットビジネスセンター渋谷東口駅前）
- 3月23日（月）桑沢デザイン研究所卒業式に出席
- 
- 理事・委員会8回
- 夏期デザイン講座実行委員会1回
- NEWS193編集会議2回/取材 随時
- 同窓会ウェブサイト・SNS更新 随時
- 桑沢祭に参加
- 卒業アルバム制作に協賛



体験講座「はじめてのデッサン」



体験講座「はじめての色彩構成」

## 同窓会役員一覧

**会長** 八十島博明  
**副会長** 森井久寿生 細山歩  
**理事（会長・副会長を含む）**  
 赤羽なつみ 日下部昌子 田辺千晶  
 野口英明 細山歩 本田理恵  
 宮澤太地 森井久寿生 八十島博明  
 飯内雄美 山越史洋  
 由良万紀子 横森美奈子  
**監事** 大豆生田守 大槻高康

**特別委員** 近藤信一 中西元男 薬師神親彦 山田脩二  
**委員** 新日恵 池田系 稲村彰保 小川航司  
 尾形優子 小嶋一夫 後藤和樹  
 雑賀吉人 佐古汐里 澤田昂之介 新保怜奈  
 鈴木順平 滝口未来 田代卓 富野隆平  
 畑秀樹 平林千明 房忍 堀池仁  
 三上司 宮畑周平 宮代美佐江  
 森井由佳 矢島裕丈 山田友香子  
 矢内原充志 吉田仁 渡辺和音

**名誉会長** 佐藤竜平（研究所長）  
**顧問** 浅葉克己（元所長）  
 市瀬昌昭（元所長）  
 原美夫（元同窓会副会長）  
**相談役** 守屋秀之（研究所事務局長）  
**事務局** 伊草喜久江 田口智郁子

## 2025（令和7）年度 収支・決算

（単位：円）

### 収入の部

科目	2026年度予算	2025年度予算	2025年度決算	差引残高
前年度繰越金	2,875,170	3,573,215	3,573,215	0
終身会費	9,330,000	9,240,000	9,210,000	△ 30,000
受取利息	15,000	5,000	12,251	7,251
雑収入	5,000	5,000	0	△ 5,000
収入合計	12,225,170	12,823,215	12,795,466	△ 27,749

### 支出の部

科目	2026年度予算	2025年度予算	2025年度決算	差引残高
広報費	2,400,000	2,400,000	2,164,170	△ 235,830
ホームページ運営費	450,000	450,000	367,078	△ 82,922
企画費	400,000	400,000	258,409	△ 141,591
会議費	50,000	100,000	27,672	△ 72,328
通信費	150,000	150,000	118,545	△ 31,455
事務局運営費	3,600,000	3,150,000	3,452,797	302,797
事務消耗用品費	600,000	600,000	508,070	△ 91,930
総会費	1,000,000	1,000,000	285,230	△ 714,770
他団体交際費	700,000	700,000	551,114	△ 148,886
支部費	200,000	200,000	0	△ 200,000
リース料・支払手数料	150,000	150,000	127,875	△ 22,125
雑費	40,000	40,000	59,336	19,336
予備費	160,000	160,000	0	△ 160,000
桑沢賞寄付金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0
基本財産繰入	0	0	0	0
次年度繰越金	325,170	1,323,215	2,875,170	1,551,955
支出合計	12,225,170	12,823,215	12,795,466	△ 27,749

## 2025（令和7）年度 桑沢賞収支・決算

### 収入の部

科目	2026年度予算	2025年度予算	2025年度決算	差引残高
前年度繰越金	12,162,751	10,456,800	10,456,800	0
桑沢賞寄付金繰入（同窓会）	2,000,000	3,000,000	3,000,000	0
桑沢賞寄付金繰入（夏期講座）	1,520,168	1,715,346	1,715,346	0
雑収入	30,000	0	130,000	130,000
受取利息	20,000	5,000	18,653	13,653
合計	15,732,919	15,177,146	15,320,799	143,653

### 支出の部

科目	2026年度予算	2025年度予算	2025年度決算	差引残高
桑沢賞開催費合計	2,540,000	5,000,000	3,158,048	△ 1,841,952
次年度繰越金	13,192,919	10,177,146	12,162,751	1,985,605
合計	15,732,919	15,177,146	15,320,799	143,653

## 2025（令和7）年度 夏期デザイン講座収支・決算

### 収入の部

科目	2026年度予算	2025年度予算	2025年度決算	差引残高
前年度繰越金	1,356,626	1,356,626	1,356,626	0
夏期講座収入	3,400,000	3,400,000	3,387,800	△ 12,200
受取利息	6,000	4,000	6,374	2,374
その他	0	0	0	0
夏期講座収入合計	4,762,626	4,760,626	4,750,800	△ 9,826

### 支出の部

科目	2026年度予算	2025年度予算	2025年度決算	差引残高
夏期講座小計	2,200,000	2,200,000	1,874,006	△ 325,994
桑沢賞寄付金（夏期講座）	1,206,000	1,204,000	1,520,168	316,168
次年度繰越金	1,356,626	1,356,626	1,356,626	0
合計	4,762,626	4,760,626	4,750,800	△ 9,826

# 卒業生作品展 「桑沢2026」が 開催されました

今年も2026年2月27日（金）～3月1日（日）の3日間、桑沢デザイン研究所の本校舎と2号館で卒業生作品展が開催されました。今年のビジュアルは卒業生のChou Chia Yuさん（1部2019VD3B）のデザインです。

この小さな学校でビジュアル、プロダクト、スペース、ファッション、基礎造形といったあらゆるジャンルの「デザイン」を俯瞰できるのが桑沢の卒業生作品展の特色です。さらに世の中の多様化に呼応して、学生達の表現方法も多岐にわたっていました。

桑沢2026では新たに「祖父江慎ゼミ」と「久保寛人ゼミ」が加わり、多様化が加速しています。

我々同窓会理事・委員もこの中から新人賞に相応しい作品を選考いたしました（受賞者は02ページ）。広範囲に及ぶ表現方法でパーソナルなモノから公共的な問題解決まで、とても難易度の高い選考会となりました。

今年も学校が特設ページを用意しています。見逃した方はアクセスしてみてください。



「桑沢2026」特設ページ  
<https://www.sotsuten-archive.kds.ac.jp/students/>





# 第31回 桑沢賞 再始動の第一歩

31st KUWASAWA AWARD  
THE FIRST STEP OF RESTART



## 第31回[2025]桑沢賞 各賞受賞者 (敬称略)

### 桑沢賞 (本賞)

青木健二 (写真家)

### 桑沢特別賞

渡辺弘明 (インダストリアルデザイナー)

### 桑沢スピリット賞

平林千明 (玩具開発者)

岩柳麻子 (オーナーシェフパティシエール)

### 桑沢新人賞 (P9をご参照ください)

第31回[2025]桑沢賞表彰式&交流会が、2025年5月31日(土)の午後3時から東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLにて、執り行われました。

1992年の創設以来、コロナ禍以外は毎年開催されてきた「桑沢賞」ですが、前回の第30回を一つの節目として2年に1度のビエンナーレ方式へと移行。今回はその新たな歩みの第一歩となる記念すべき開催となりました。

司会には今回も、同窓生でイラストレーター&ソラミミストの安齋肇さん(1部49L2B)を迎え、終始和やかな雰囲気の中で式は進行。八十島博明同窓会会長の挨拶に続き、新人賞、スピリット賞、特別賞、桑沢賞(本賞)の順に各賞の授与が厳かに、かつ温かく行われました。

最後に審査員から贈られた総評は、桑沢賞受賞者の功績を称えるとともに、デザインの未来を照らす深い示唆に富んだ

ものでした。

表彰式に続く交流会は、桑沢デザイン研究所の佐藤竜平所長による乾杯でスタート。会場の至る所で世代を超えた交流の輪が広がり会話の花が咲きました。

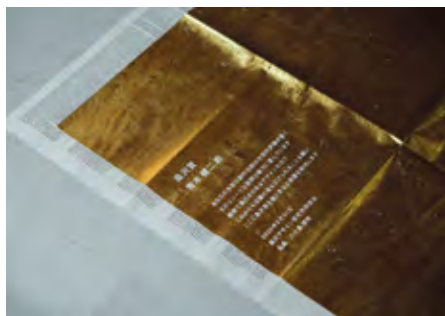
開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、そしてご参加いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

## 賞状コンセプト

### 渡辺和音 2023年桑沢賞受賞 (1部 H16L系 3B)

桑沢賞としてふさわしい新しい賞状にするにはどうすればいいか。「賞状としての佇まい」よりもどういう考え方が「新しいデザイン」と感じてもらえるか。そこを構築しデザインしよう決めました。考えた結論は、既存の役目を果たした物だけを使用。再定義付けて賞状にする。賞状は新聞、ケースは古段ボールです。元からある折れやシワなどを活かし雑多で軽く。その上で桑沢賞の舞台にふさわしくあるように。試行錯誤しながら制作しました。

2025年「桑沢賞 賞状」は、日本タイポグラフィ年鑑 2026において、グラフィック部門の「部門別ベストワーク」を受賞しました。伝統ある賞にふさわしい品格と重厚感を備えつつ、現代的な感性を融合させた点が高く評価されました。特に、緻密な文字配置と余白の美学が、タイポグラフィの本質を体現する「ベストワーク」と称えられました。



## Tシャツコンセプト

### 高橋敏 2023年桑沢特別賞受賞 (1部 43L3PK)

Kをモチーフにして、受賞記念のTシャツです! というよりも、よく見たらKを感じる程度に、着やすいように軽いデザインにしました。





**桑沢賞**  
青木健二さん (2部 63VD2B) 写真家

1968年生まれ。桑沢デザイン研究所でバウハウスの理念を学ぶ中で、マレーヴィッチの「無対象の世界」という芸術思想に出会い多大な影響を受ける。『無対象』を東洋思想の『禅』や『自然哲学的芸術』『0の概念』として捉え、写真を通じて形あるものから『無対象』を探求するようになる。

1993年より東京で活動を開始し、2010年に渡米してニューヨークへ拠点を移す。在米中は『The New York Times Magazine』や『TIME』の表紙などを数多く手掛け、その作品は『AMERICAN PHOTOGRAPHY』等に出選された。2021年にはドイツ Kehrler Verlag 社より写真集『SPACE』を出版。

2023年に帰国し、翌年には帰国後第一弾となる『still life』をFRAGILE BOOKSより出版。以後、都内の書店やギャラリーで写真展を開催。

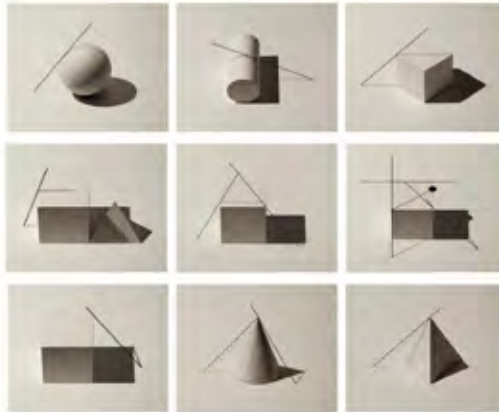
NYアートディレクターズクラブの銀賞など世界的な賞を数多く受賞しており、デジタル化が進む現代において、独自の視点から「写真」という手技による表現に挑戦し続けている。

賞歴に「2023 - Refocus Awards - Civilizational Collapse.」「2013 - Communication Arts - Award of Excellence - Editorial」など、世界的に権威のある賞を数多く受賞。

**受賞のことば**

バウハウスの理念は、「創造を通して社会とつながる」ことにあります。そして、私がそこから学んだ最も大きな教訓は、“引き算”の力でした。情報があふれる現代において、「何を見せないか」という問いが、私にとっての創作の出発点であり続けています。

このたびは、桑沢賞という名誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。



**桑沢賞 審査総評**



**山崎泰さん**  
ジャーナリスト

今回、初めて桑沢賞の審査に参加しました。多様な分野・世代の候補者の活動に圧倒されつつも、他の審査員との対話を通じて視野が広がり理解が深まりました。本賞の青木健二さんの作品は、極めて精緻に構成された対象を「ここしかない」という一点から写し取って見せるもの

です。大胆さと繊細さが共存するその表現は、力強く魅力的でした。作品は著名な米国の雑誌で表紙を飾るなど文化を越えて評価されています。青木さんのミニマルで緻密な作家性の根底には、桑沢で培われた「デザインの原動力」が息づいていると感じます。デジタル全盛の時代にあって、写真の可能性をあらためて考える機会となりました。



**高橋正実さん** (1部 H08L 研 GD)  
クリエイティブディレクター、  
デザイナー、コンセプター

様々なものが成熟し、混沌(カオス)と秩序(ノモス)が凝縮された現代において、青木さんの作品は桑沢デザイン研究所での学びを体現しています。その学びは、デジタルを含め時代を超えた普遍的なものであり、深い呼吸のような根源的な力を備えています。

デジタルを一切使用しない青木さんの作品からは、デザインの本質である「見えないものを見えるようにする力」や「未踏の気づきを与える力」が感じられます。基礎から積み上げられた確かな訓練に裏打ちされた、これら一連の素晴らしい作品群と活動こそが、現代における桑沢賞にふさわしい価値を示しているといえます。



**桑沢スピリット賞  
平林千明さん**

(1部 H11L 研ID) 玩具開発者

2000年に桑沢デザイン研究所を卒業後、文具メーカーを経てトミー（現タカラトミーアーツ）に入社。デザイナーとして玩具の枠を超えたヒット商品を次々と手掛けている。

2008年の「デコッティ」や「ギガプリン」を皮切りに、食を楽しく彩る「スマート飯」や「究極のTKG」などの話題作を展開。2016年に爆発的ヒットを記録した「そうめんスライダー」は、東京サマーランド監修による確かな品質が支持され、2024年のポケモンとのコラボモデルを含め、平林さん自身が5度目となる「日本おもちゃ大賞」を受賞した。自ら流通開拓や交渉も行う積極的な姿勢で企画を具現化し、「子供たちの心に残る商品作り」を目標に掲げている。



**受賞のことば**

素晴らしい賞をありがとうございます。好きな事を仕事にできたのは、桑沢デザイン研究所で学べたからだと社会に出るから実感しました。

賞を励みに、これからも子供から大人まで楽しい記憶に残るモノづくりをしていきたいです。

おもちゃの企画開発を評価して頂いた、先輩方、先生方に感謝致します。



**桑沢スピリット賞  
岩柳麻子さん**

(1部 H11D 研C) オーナーシェフパティシエール

1977年生まれ。桑沢デザイン研究所で染織を学び、染色家として活動した後、飲食店での経験を機に食の世界へ進む。独学でパティシエールの技術を習得し、2005年から10年間シェフパティシエールを務めた後、2015年に自身の名を冠した「PÂTISSERIE ASAKO IWAYANAGI」をオープン。

雑誌の特集から誕生した“宝石のようなパフェ”と称される「パルフェビジュ®」を提供。以降、系列店を展開し、2023年には福岡にも出店。同年、フランスのレストランガイド「LA LISTE」にて、クリエイティブなパティシエに贈られる特別賞を受賞した。旬のフルーツと厳選素材にこだわったスイーツやフードメニューが人気を博し、遠方や海外からもお客さんが訪れている。



**受賞のことば**

この度は桑沢スピリット賞という栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。お菓子という限られた表現に、どこまで創造性を込められるか模索する日々。桑沢で培った観察力と感性が、その根幹にあります。

この賞は私一人の力ではなく、共に挑んできた仲間や生産者の皆さま、応援してくださるお客様のおかげです。恐れずに挑み続けるクリエイションが、この先も生まれ続けていくことを願っております。





**桑沢特別賞**  
**渡辺弘明さん**

(1部 58L 研ID) インダストリアルデザイナー

1960年生まれ。1983年に桑沢デザイン研究所を卒業後、株式会社リコーに入社。工業デザインセンターにて情報機器のデザインに従事。1989年からは米国のfrogdesignやZiba designで国際的なプロジェクトに参画した。

1995年に帰国後、有限会社ブレーン（現・株式会社ブレーン）を設立。約30年にわたり情報機器や調理器具、文具など100社以上のデザインを手掛けている。2011年には自らメーカーとしての活動も開始し、テーブルディスペンサー「eN」でグッドデザイン賞やiF design awardなど主要なデザイン賞を独占した。また、2022年には本田技研工業の発電機「EU26」でグッドデザイン賞、Red Dot Design Awardなど、多数の賞を受賞。

1997年から2013年まで桑沢デザイン研究所の非常勤講師を務め、そのほか、多摩美術大学、武蔵野美術大学、千葉工業大学などでも教鞭を執り、未来を担うデザイナーの育成に大きく貢献している。2007年から2024年までグッドデザイン賞の審査委員を務めるなど、業界の活性化にも尽力された。



**受賞のことば**

この度はこのような栄誉ある賞をいただき、たいへん光栄に思います。

歴代の受賞者のお名前を拝見致し、身が引き締まる思いです。

私は桑沢の優れたカリキュラムによりインダストリアルデザイナーを志し、愚直にもものづくりに励んでまいりました。

これまでに出会った多くの方々へ心より感謝致し、今後もクリエイターとして益々精進いたします。

ありがとうございました。



**桑沢新人賞** 卒業生作品展「桑沢2025」において、優秀な作品を発表した学生に対して贈られました。



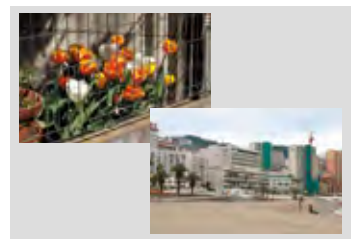
戸田明希さん（浅葉克己＋菊地敦己ゼミ）  
作品名：Book or ?



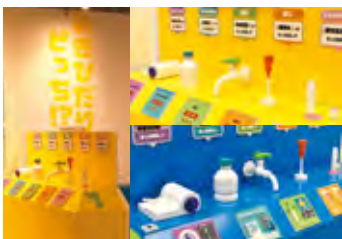
横山友人さん（浅葉克己＋菊地敦己ゼミ）  
作品名：寄生字体 Paratypo



渡邊萌衣さん（伊藤透ゼミ）  
作品名：Scarlet Girls Night



渡部沙幸さん（羽金知美ゼミ）  
作品名：さがしもの あしあと



久能楓さん（白木幸一郎ゼミ）  
作品名：みぎひだりどっち!?展



馬瀬日向子さん（篠崎隆ゼミ）  
作品名：fair



河村健太さん（藤田恭一ゼミ）  
作品名：今までとこれから



山崎舞華さん（夜間VD2B）  
作品名：「吉山歩」「風立ちぬ」堀辰雄

## 三浦和人×牛腸茂雄 写真展「そこにあって、そこにはないもの」

2025年12月2日から12月26日まで、渋谷の日本写真専門学校WALL GALLERYにて三浦和人さんと牛腸茂雄さん（共に1部42L3写真）の写真展「そこにあって、そこにはないもの」が開催されました。

牛腸さんは、桑沢の講師だった写真家の大辻清司氏に才能を見出され、当時注目され始めたコンポラ写真の旗手として

頭角を表しました。幼少期に罹患した難病と闘いながらも写真を撮り続け、36歳という若さで夭逝しています。

同級生だった三浦さんは、自身も写真家として仕事をしつつ、残されたネガを受け継ぎ牛腸さんの生きた証を世に伝える作業を続けています。この展覧会もプリントはすべて三浦さんが担当しました。

今回は二人の写真が同じ空間に並べら



れました。多くは子供を被写体とした白黒写真で、1960年代から1990年代に撮影されたもの。笑顔だけではない子供たちの独特の表情や、背景や街の様子も伝わり、記録としても価値のある魅力にあふれた作品展でした。

不思議なのは、二人の写真家の展覧会のはずなのに、個展ではないかと錯覚させられてしまうことです。作品もランダムに並べられ、よく見るとどちらの作品なのかを示すシールが貼られていて判別できるという仕掛け。

三浦さんが、フィルムだけでなく牛腸さんのスピリットそのものを引き継ぎ、同じ視点を共有し「牛腸茂雄は今も生きている」と訴えかけているかのようです。

恩師の大辻氏がかつて記したように「友情という言葉だけでは語りきれない」二人の強い絆が感じられました。



撮影：三浦和人



撮影：牛腸茂雄

## 小川清美さん 第27回「はじめの一步」写真展

2025年10月31日より11月6日まで富士フォトギャラリー銀座にて小川清美さん（1部48L3PK）の写真展が開催されました。この写真展は、小川さんが主宰する撮影会の第27回目となる発表会で、

会場には会員の皆さんによる作品も多く展示されました。

今回、小川さん自身が発表したのは、アメリカのイエローストーン国立公園で撮影された作品群です。そこに息づく野



生動物たちの生き生きとした瞬間を捉えた素晴らしい写真でした。

小川さんは桑沢を卒業後、多岐にわたるジャンルの写真を撮り続けてきましたが、一貫して情熱を注いできたのは山岳写真をはじめとする「自然と向き合う写真」です。今回の作品においても、人間には到底及ばない自然のダイナミズムや荘厳さ、美しさ、そこに生きる動物たちの愛らしさと力強さを見事に表現。自然界の計り知れない魅力を感じました。



## 関口正夫さん 写真展「こと ポルトガル 2024」



2025年10月17日から22日まで写真家関口正夫さん（1部42L3写真）の写真展「こと ポルトガル2024」が青山のGallery 5610で開催されました。

会場には2024年春にポルトガルを旅



して収めた三十数枚のスナップ写真が展示されました。一見すると静謐なモノクロームの作品が並んでいるのですが、一枚一枚視線を向けていくうちに観る者の心は静かに揺さぶられ始めます。

関口さんの撮影スタイルは心赴くままに街を歩き、風景や行き交う人びとを35ミリのモノクロフィルムのフレームに収めるといったもの。この手法は、1971年に牛腸茂雄さんとの共著『日々』を、2003年に自身の写真集『こと』を出版して以来六十年余りにわたって貫かれています。撮影したフィルムや作品に



一切の加工も施さない「一発撮り」の手法からは、写真家としての妥協のない強い信念が伝わってきます。

映し出されたモノクロームの世界は、遠い異国の街角の匂いや、そこに流れる会話や群衆の喧騒まで感じさせてくれます。それはまるで映画のワンシーンを観ているように私たちの心を掴み、言葉では語りつくせない何かを問いかけてくるようでした。

時代が移り変わっても変わることのない関口さんの、揺るぎない視線が感じられる作品展でした。

## 武藤慧さん 写真展「呼吸」

写真家 武藤慧さん（1部55L2A）の写真展「呼吸」が2025年11月14日から30日まで、東京・西荻窪の隠れ家ギャラリー「studioTe（スタジオ・テ）」で開催されました。庭の草木や光と共鳴するような空間には、武藤さんの意欲作が絶妙な配置で並びました。

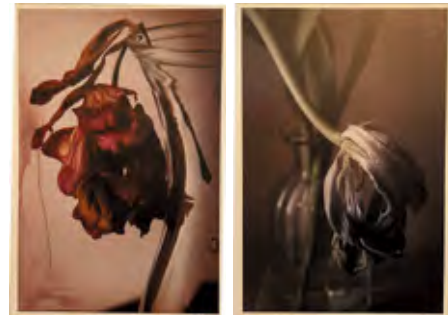
武藤さんはタイトルに込めた思いを、「写真を撮ることは、自分にとって呼吸と同じくらい自然で大切なこと」と語ります。レンズが捉えたのは、空に浮かぶ雲や窓に凍る雨といった日常の何気ない風景。それらはモノクロームの世界の中で命を宿し、静かに「呼吸」を刻みます。

彼女の代表作「遠ざかる花」\*シリーズも展示されました。それは鮮やかに咲き誇る花ではなく「盛りを過ぎ、枯れゆくプロセスにある花」の姿。命が燃え尽きようとする瞬間の凄みが、克明に写し出されていました。



武藤さんの作品には、西洋絵画を彷彿とさせる光と空気の描写、そして落ち着いたトーンの中に、構成美と余白の感性が息づいています。西洋美術史とデザインを学び、広告スタジオでのカメラマン助手を経て渡仏。1990年代をフランスで過ごした武藤さんの多彩な経験が、現在の作風の源泉となっています。

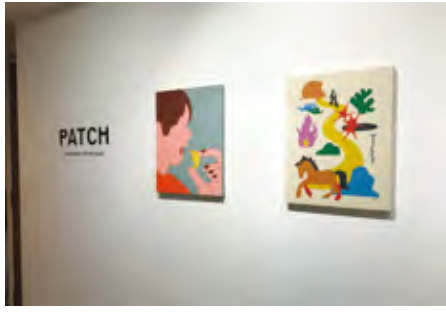
詩的で気品に満ちた武藤慧の世界観に、深く魅了される展覧会でした。



武藤慧 Instagram @m.keimuto

\*2023年「遠ざかる花」をテーマに、写真雑誌『IMA』主催のオンライン写真コンテスト『IMA next』#45（テーマ：SCENE）にてグランプリを受賞。

## 高橋あゆみさん 個展「PATCH」



イラストレーター 高橋あゆみさん（2部 H26VD2B）の個展が2025年10月14日から26日まで神宮前のギャラリールモンドで開催されました。

広告ヴィジュアルや、パッケージ、エディトリアルなど多方面で活躍している高橋さん。ギャラリーには色彩豊かな平面作品とガッシュ単色で描かれた力強い線画の原画が並びました。

今回のタイトル「PATCH」は、描きながら頭に浮かんだモチーフをパッチワークのように繋ぎ合わせて一つの世界をつくるスタイルを表しています。持ち味である独特なフォルムを持つ平面の組み合わせとソフトながら鮮烈な印象を残す色使いは、高橋さん自身が愛する60

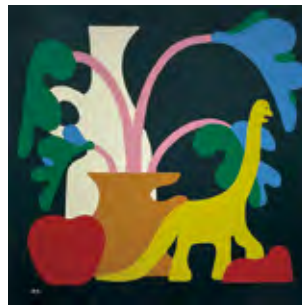


年代のポップアートを彷彿とさせます。その作品の魅力は現実から少し離れた場所にある世界を覗き込んでいるような、平面なのに空間を感じる不思議さにあります。

美大で専攻した油絵の経験と、その後桑沢で育んだデザインの感性とが響き合うことで、独特のスタイルが確立されたのでしょう。

長年、和田誠さんが手掛けてきた「週刊文春」の表紙のリニューアル1号に高橋さんが抜擢され、2025年9月11日号から3か月間にわたり表紙を飾りました。色彩豊かな表紙は店頭に新たな登場感をもたらしました。

高橋さんの魅力がたくさん詰まった展覧会でした。



高橋あゆみ Instagram @taakhs

## 村西恵津さん 個展「旅・おいしい時間」

村西恵津さん（1部55L2B）の作品展が、2025年11月16日から30日まで、銀座・伊東屋（K.Itoya）で開催されました。2年ぶりとなる今回の個展のテーマは「旅・おいしい時間」。

会場には、村西さんが2024年に訪れた北スペイン サンティアゴ・デ・コンポステーラやバスク地方の美味しい思い出を中心に、国内外での豊かな旅の時間

を描いた「カレンダー 2026」の原画などが展示されました。

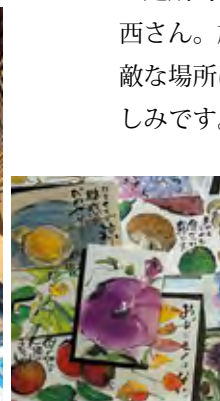
作品には、美しい風景をはじめ、旅先で出会った旬のグルメ、色鮮やかな花々、趣ある街並みが、旅情たっぷりに生き生きと描かれています。透明水彩やアクリル絵の具、墨などを使い分け、緻密でありながらも柔らかいタッチで仕上げられた作品は、見る人の「旅の記憶」を呼び



覚まします。

スペインからフレンチバスク、そして日本各地へ、まるで自分も一緒に旅をしているような贅沢な気分を味わうことができました。

定期的に個展を開催しているという村西さん。旅を愛する彼女が次はどんな素敵な場所に連れて行ってくれるのか、楽しみです。



イラストレーター、デザイナーとして幅広く活動する村西さんは「モダン絵がみ」の第一人者としても知られ、各地のカルチャーセンターで開催される水彩画や絵手紙の講座なども人気を集めています。

村西恵津 Instagram @etsu.muranishi

# 松山智一さん 個展「FIRST LAST」



現代美術家の松山智一さん（2部H12 VD2B）の個展「松山智一展 FIRST LAST」が2025年3月8日から5月11日まで、東京・麻布台ヒルズギャラリーで開催されました。四半世紀にわたりニューヨークを拠点に活動する松山さんにとって、本展は東京で初となる大規模な個展。日本初公開の新作を含む40点以上の作品が展示されました。

松山さんの作品スタイルは、異なる文化や時代、ハイカルチャーとローカルチャーを縦横無尽に組み合わせる「サンプリングと再構築」が特徴です。江戸時代の浮世絵や西洋の古典絵画といった「伝統」と、現代のロゴや日用品といった「日常」のイメージが緻密に再構成さ

れ、一つの画面に不思議な調和を保ちながら共存しています。各作品には、多様な文化が混ざり合うニューヨークで、自らのアイデンティティを追求し続ける松山さん独自の視点から、格差や分断が複雑に絡み合う現代社会への問いが描き出されています。

展示室に足を踏み入ると、眩いばかりの色彩と壮大なスケール、そして作品から放たれる圧倒的な迫力と熱量に心を奪われます。作品は絵画のみならず、立体作品やインスタレーション、さらには映像作品まで多岐にわたり、観る者を魅了します。「視覚的な美しさ」に留まらず、情報過多な現代を生きる私たちの心を揺さぶる、エネルギッシュで

知的な展覧会でした。

松山さんは20代、プロのスノーボーダーを目指していましたが、大怪我でその道を断念。入院中に絵を描いたのがきっかけでアートの世界に惹かれ、大学に通いながらデザインを学ぶため、桑沢デザイン研究所の夜間部VDに入学しました。桑沢での学びを通じてクリエイティブの可能性を広げたいと、大学卒業後の2002年に渡米。その後、ニューヨークのプラット・インスティテュート大学院を首席で卒業し、アーティストの道を歩み始めました。現在はニューヨークのブルックリンに大きなスタジオを構え、多くのスタッフと共に作品を作り出しています。



《We The People》(2025年) 293 × 533cm  
18世紀の名画『ソクラテスの死』の構図を現代アメリカのスーパーマーケットに置き換え、現代社会が抱える問題を提示している。

写真左上：《Passage Immortalitas》(2024年) 267 × 470cm  
ボッティチェリの名画『チェステッコの受胎告知』のシーンを引用。東西の文化的要素と古典・現代の視覚言語を交差させ、複層化する現代社会の姿を描き出している。  
写真右上：立体作品の展示風景 (左) Immortality Morality (2021) (右) Glory Slowly (2021)

**世界が注目! 最新事例**



**1.** Midnight Moment Times Square Arts @ Times Square  
ニューヨーク・タイムズスクエアにて開催の世界最大級パブリックアート「Midnight Moment」を手がけた。毎晩23時57分から3分間、96面以上のスクリーンにて最新映像作品を上映、都市と文化に内在する自由を可視化した。(2026/4/1-30)



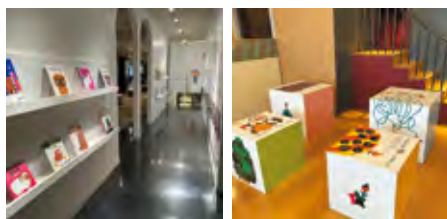
**2.** Tomokazu Matsuyama: Morning Sun @Edward Hopper House Museum & Study Center  
エドワード・ホッパー・ハウス美術館にて個展を開催。アメリカを代表する画家ホッパーへのオマージュとなる大作《Morning Sun Dance》を発表、孤独やグローバル化、消費社会における人間の在り方の提示を試みた。(2025/6/20 - 2025/10/5)  
松山智一 Instagram @tomokazumatsuyama

# あそぼうよ！五味太郎えほんの世界展

日本を代表する絵本作家の五味太郎さん(2部42PDID)の展覧会「あそぼうよ！五味太郎えほんの世界展」が2025年8月8日から2026年5月27日まで東京・葛飾区亀有の絵と言葉のライブラリー ミッカで開催されています。

ミッカは「子どものための小さな図書館」として絵本の本棚だけでなく子どもの好奇心を掻き立てるようなシアター、アトリエ、ギャラリーも併設されたユニークな図書館です。

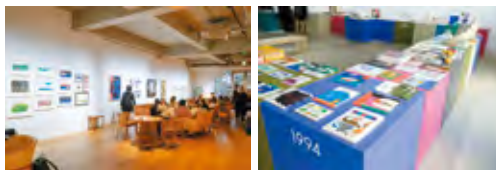
この多様なスペースに五味さんのテーマもストーリーも楽しみ方も多岐にわたる絵本やイラスト、絵本との関連グッズなどがさまざまに展開され、五味太郎ワールドというべき空間が広がり、その中で遊ぶ子どもたちは思い思いに立ち振るまい楽しんでいる様子が印象的でした。



写真提供：絵と言葉のライブラリー ミッカ

## 五味太郎 絵本出版年代記展「ON THE TABLE」

2025年12月から2026年2月まで代官山で開催。五味太郎さんの自主企画で1973年から52年間に手がけた著作372作すべて、海外翻訳出版も含め1,000冊以上の展示は圧巻でした。絵本本来の魅力である「手に取り、読む」体験を重視した会場では、来場者がページをめくりながら五味太郎の豊かな世界に浸っていました。



## かわいちひろさん 個展「BETWEEN BEING」

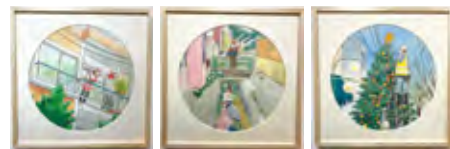
2025年12月16日から28日まで神宮前のギャラリー ルモンドにて、イラストレーターそして漫画家としても活躍しているかわいちひろさん(1部H25PD3D)の個展が開かれました。



ギャラリーには水彩画材で描かれたイラストの原画、漫画の単行本、イラストが使用された書籍、カレンダーやポスターなどの印刷物が多く並び、かわいさんの活動範囲の広さが窺えました。

プロダクトを専攻したかわいさんがイラストレーターになったきっかけは、SNSで発信していた絵が出版社の編集者の目に止まったことでした。そして小学校の道徳の教科書にイラストが採用されデビューしました。プロダクトの授業で事物の構造を立体的に捉える基礎力を学んだことが平面のイラストの仕事にも役立っているそうです。

人を描くのが好きだとかわいさんのイラストは、日常の何気ない一瞬を切り取り、温かみと物語性を感じさせてく



れるものです。だからこそ後に漫画という仕事へも派生していったのでしょうか。ストーリーもご自身で考えているそうです。現在マンガサイト「Souffle」で思春期の複雑な人間模様を描いた「違うクラスの好きな人」を連載中。

様々な分野の書籍の仕事をしていくことで新しい世界を知り、それがまた仕事のヒントにもなるとかわいさん。これからの活躍がととても楽しみです。

かわいちひろ Instagram @chihikwi

## 井上有一の書と戦後グラフィックデザイン 1970s-1980s

脈動する毛筆、炸裂する墨液…。あまりにも強烈すぎる書の数々で知られる井上有一氏（1916－1985）の没後40年を記念した展覧会が、東京・渋谷の松濤美術館で2025年9月6日から11月3日まで開催されました。

この井上氏の特異な書業と来歴に鋭く反応したのが、ほかでもない田中一光氏や浅葉克己さん（1部34L基A）、杉浦康平



井上有一：書「愚徹」1956

氏、山口信博さん（1部48L1B）などのグラフィックデザイナー達でした。70年代を境に、名だたるデザイナーが井上作品を用いた印刷物に携わるようになり、80年代以降、デザインや広告が経営戦略に取り入れられ、井上氏の書のイメージは、70年代以降のデザイナーとのつながりを通じて、巧みにプロデュースされていきました。

この展覧会は、「戦後」が曲がり角に差し掛かるこの時期、一見奇妙な井上有一氏の書とグラフィックデザインの連帯は、いかにして成立したのか。そしてこの連帯が目指すものはいったい何だったのか。



TBS ポスター  
D：浅葉克己 1987

間取り展ポスター  
D：山口信博 2001

それは「戦後」という時代がどのように移り変わり、現在に至っているのかを振り返る確かな手がかりともなる内容でした。

## 森弥栄子さん 個展



桑沢で長くデッサンの授業を担当してきた森弥栄子さん（1部42L3GD）の絵画展が2025年10月30日から11月6日まで東京・新宿のギャラリー絵夢にて開催されました。

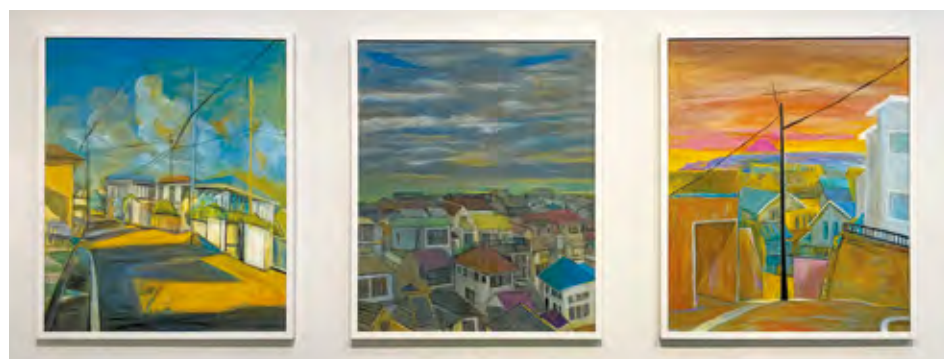
会場には数多くの旧作、新作が展示されました。なかでも最新作の三



枚組「ゆく夏」「曇天」「ゆう日」は季節や気候による街並みの姿を巧みな形と色彩で表現した作品で、森さんの新たな挑戦が感じられる意欲作といえます。

ほかにも、会場にはモノトーンのシリーズや「遠景シリーズ」などの水彩画、ドローイングの作品が展示され、森さんの繊細かつ力強いタッチが光る多彩な表現を楽しむことができました。

森さんは久々の個展ですが制作意欲はまだまだ旺盛で、2年後に次回開催を計画中とのこと。楽しみです。



## 吉田昌平さん「の」展

アートディレクター・デザイナーの吉田昌平さん（2部H19VD2B）の個展『の』が2025年3月27日から4月19日まで東京・新宿区の「Roll」にて開催されました。

今回の展示では吉田さんが長年制作をされてきたコラージュ。無数の紙片が吉田さんの身体を介し、重なり、新たな生命を宿した作品群は、まさにご本人の思考や哲学が可視化された「存在」としてそこにあるようでした。

吉田さんは卒業後はカメラマンのアシスタントなどをした後、仕事を一から学



吉田昌平 Instagram @heiyoshida / Artwork Instagram @heishohei / 白い立体 Art direction&Design Instagram @shiroirittai

ぶために「ナカムラグラフィ」に入社、研鑽を積み11年前にデザイン事務所「白い立体」を立ち上げました。今日までに多くの雑誌や書籍、デザインワークに携わり2024年からは本校の学校案内も手掛けています。2023年には東京国立近代美術館で開催された『土偶とハニワ展』の図録で第66回全国カタログ展で金賞に当たる経済産業大臣賞を受賞という快挙

を遂げました。

今回の展示について吉田さんはそのステートメントにて、「今後の過程でもあり、途中でもある」と述べています。

デザイナーとして時代の変化に敏感に反応しながら、同時に作家として黙々と作品を作り続ける姿に深い信念と誠実さ、そして無限の可能性を感じた素晴らしい展示でした。

## ICOMA 折りたたみ電動バイク「タタメルバイク」



タタメルバイク  
GOOD DESIGN AWARD & if Design Award

ジャパンモビリティショー 2025  
tatamo!



ジャパンモビリティショー 2025\_ICOMA ブース

生駒崇光さん（2部H21PD2D）が代表を務める株式会社ICOMAは、2025年10月30日～11月9日に開催された「ジャパンモビリティショー 2025」に、折りたたみ電動バイク「タタメルバイク」を出展しました。

生駒さんは玩具メーカー出身で、変形ロボット開発に携わってきた経歴を持ちます。



タタメルバイク カプセルトイ

ICOMAのモノづくりは“おもちゃ”が原点にあり、タタメルバイクもプロトタイプとしてカプセルトイが先行開発されました。

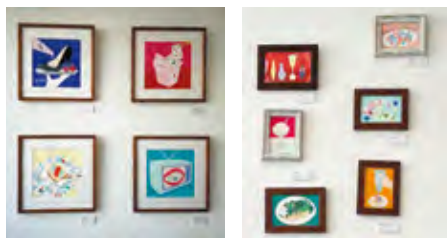
遊び心と機能性を融合させた同車は、2025年にグッドデザイン賞の「私の選んだ一品 2025」を受賞。さらに、2026年2月には世界三大デザイン賞の一つである「if DESIGN AWARD 2026」を受賞するという快挙を成し遂げました。モビリティショーの会場ではロボティクスを導入した新コンセプトモデル「tatamo!」も披露され、パーソナルモビリティの新たな可能性を世界に提示しました。

株式会社ICOMA <https://www.icoma.co.jp>

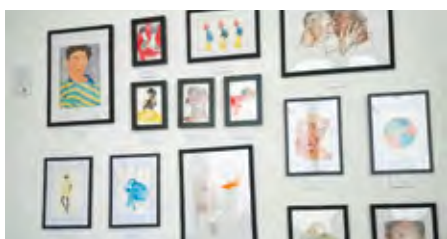
## グループ展「mellow」

2025年10月17日から19日まで、東京・吉祥寺 GALLERY IRO Room1にて、京坂紘子さん、浅子唯さん、ひろよさん（2部2020VD2A）の3人がグループ展「mellow」を開催しました。

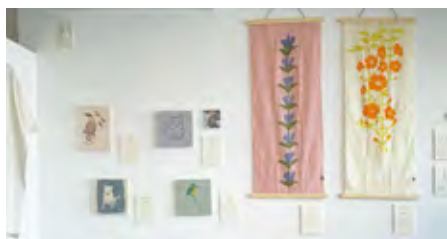
3人は桑沢の夜間部ビジュアルデザイン専攻で共に学んだ同級生。現在はそれ



京坂紘子 Instagram @k\_hiro\_ko



浅子唯 Instagram @yuiasako\_\_



ひろよ Instagram @mywkhyr



ぞれが自分の得意分野を活かし、創作活動を続けています。

本展では、壁一面を一人ひとりの空間とし、各自が大切にしている「好きなもの」や日々の小さな喜びを込めた作品を展示しました。秋の柔らかな光が差し込むギャラリーには、三者三様の「心地よい」空気感が共鳴し、タイトル通り「mellow」な時間が流れていました。



左から 浅子唯さん、ひろよさん、京坂紘子さん

### 京坂紘子

繊細なペン画や水彩を駆使し、植物や動物、何気ない日常の風景を詩的に表現。余白を活かした構成と、細部まで描き込まれた柔らかな線が特徴です。

### 浅子唯

透明感のある色彩と、どこか幻想的な雰囲気を持つイラストレーションが魅力。心の中の風景を映し出したような、物語性を感じさせる作品を制作しています。

### ひろよ

柔らかなタッチと温かみのある色使いで、見る人をほっこりさせるキャラクターやイラストを得意としています。布や毛糸を使ったクラフト作品も手掛けています。

## 久保進・原千夏 二人展「旅する人形店」



2025年4月4日から8日まで、京橋のメゾンドネコにて人形アーティスト・原千夏さん（2部H01PD2）の『久保進・原千夏二人展「旅する人形店」』が開かれました。

会場では、気球で旅する人形や愛らしい「豆ふく福」など、手作りの温かなメッセージが込められた人形たちが来場者を迎えました。人形を手にとった時の心地よい手触りと絶妙な重みは、持ち主に寄り添い、大人が忘れていた優しい感覚を呼び覚ましてくれます。

原さんは幼少期から独学で人形作りを始め、伝統技法を経て日本人形を手掛けるようになりました。転機は子育て中、お子さんが初めて発した「じじかく！（字を書く）」という言葉です。そこから創作の喜びを再認識した原さんは、大人も子供も楽しめる図画工作のアイデアをまとめた『じじかく』手帳を発行。現在は各地で人形制作のワークショップを行い、手芸を通じて手の中で何かが出来上がる喜びと不思議さを楽しんでいます。

原千夏 Instagram @zizicacc

## 織咲誠さん「HUG BOX ♡」

織咲誠さん（1部63L2A）が8.5年の開発期間を経て生み出した、独自設計の箱「HUG BOX♡」。その展示会が2025年7月26日から8月3日まで、東京・新宿区のBOOTLEG GALLERYにて行われました。

コンセプトは「分断のない箱」。1枚の紙を切断することなく折るだけで構築されるそのフォルムは、段ボールの強度と美しさを両立させています。

展示空間では、レンガ状の「HUG BOX♡」が整然と配置され、構造の合理性とオブジェとしての美しさが共存する独創的な世界観が提示されました。

織咲誠 Instagram @m\_orisaki



## 森井ユカさん ANA 機内誌に連載中の「ニッポン47妖怪さんぽ」がグッドデザイン賞を受賞

立体造形家・デザイナーの森井ユカさん（1部60L2A）によるANA機内誌『翼の王国』の連載「ニッポン47妖怪さんぽ」が、2025年度のグッドデザイン賞（分類：メディア/コンテンツ）を受賞しました。

高く評価されたのは、日本各地の伝承に登場する妖怪を「地域の風土を再発見する装置」として再定義した点です。森井さんが、現地の粘土等を用いて妖怪をユーモラスでチャーミングに造形し、その土地の風景と一体化させる表現手法が、

「知的好奇心を刺激する質の高いデザイン」として認められました。

単なる紹介に留まらず、旅の機内で地域の多様な魅力や歴史に触れるきっかけを創出した、コンテンツとしての新しさが受賞の決め手となりました。

「ニッポン47妖怪さんぽ」は『翼の王国』のサイトでもご覧いただけます。  
<https://tsubasa.ana.co.jp/entertainment/yokai/>



<https://www.g-mark.org/gallery/winners/32680>

## 土井智喜さん 比嘉丈偉さんがデザインした新素材「Rebbur」がグッドデザイン賞を受賞

soell株式会社の土井智喜さん（2部H19SD2）と比嘉丈偉さん（2部2023PD2）がデザインを担当し、江北ゴム製作所と開発した新素材「Rebbur（リバー）」が、2025年度グッドデザイン賞（分類：産業/公共機器）を受賞しました。

Rebburは循環型社会を象徴する、サス

テナブルな新素材です。天然ゴムと食品業界の未活用材を融合させ、素材本来の質感や香りを引き出した点が、機能性と情緒的価値を両立する「新しいゴムのあり方」として高く評価されました。廃棄物を高付加価値な素材へと昇華させる、優れたデザインアプローチです。

<https://www.g-mark.org/gallery/winners/33752>



## 高橋正実さん「HANARE」コンパッソ・ドーロ受賞の快挙

高橋正実さん（1部H08L研GD）が手がけたフィジカルケア・ロボティック・ベッド「HANARE」が、2025年、イタリアの「コンパッソ・ドーロ・インターナショナル・アワード」\*を受賞しました。

本作は、日本の「おもてなし」の精神と最先端のロボット技術を融合させた点が最大の特徴。「HANARE（離れ）」という名の通り、医療・介護の場に「心安らぐ独立した空間」を創出する独創的なコンセプトが評価されました。

青山学院大学や豊橋技術科学大学との共同開発により、マッサージ機能を備えた高度なテクノロジーを、血の通った温かみのあるデザインへと昇華。機能美と

社会課題解決を両立させた本作は、イタリアのデザイン界からも「未来のスタンダード」として高く支持されています。

「HANARE」は他に2025年にA' Design Award & Competitionでも金賞を受賞。イタリアを代表する二つの大きな賞をダブルで受賞する快挙の年となりました。



写真：フィジカルケアロボット「HANARE」

2025年9月5日、大阪・関西万博のイタリアパビリオンにて授賞式が行われた。

\* Compasso d'Oro International Award  
 1954年に創設された世界最古かつ最も権威あるデザイン賞の一つで、「デザイン界のノーベル賞」とも称される。

## 水谷孝次さん「東久邇宮記念賞」を受賞

アートディレクターの水谷孝次さん（2部50GD2）が、令和7年度の「東久邇宮記念賞（ひがしくにのみやきねんしょう）」を受賞しました。本賞は、発明・文化・社会貢献などの分野で創造的な活動を行なった者に贈られる賞で、『大衆のノーベル賞』とも称されています。

水谷さんは長年、世界中の子供たちの笑顔を中心にプリントする「MERRY PROJECT」を通じ、言葉の壁を越えた平和のメッセージを発信し続けてきました。今回の受賞は、単なるデザインの

枠を超え、笑顔という「人類共通の言語」で社会に希望を与えた活動が、同賞の理念である「夢・勇気・活力」に合致

すると高く評価された結果といえます。

水谷さんが描く「笑顔の未来」が今後さらに広がることを心より祈念いたします。



## 河村侑さん「Transform Awards Asia 2025」にてブロンズ賞を受賞

アートディレクターの河村侑さん（1部H25VD3B）が英国拠点の国際的なデザイン賞「Transform Awards Asia 2025」のStrategy部門にてブロンズ賞を受賞しました。

対象となったのは、キッチン家電ブランド「Vitantonio」のリブランディングプロジェクトです。長年親しまれてきたブランドの伝統を大切にしながら、現代の家族に寄り添う温かな物語を構築しました。審査員からは、象徴的なブランド

カラーの「赤」を情緒的に再解釈した点や「伝統と現代的な静けさの両立」が見事であると高く評価されています。

ブランディングを通じてモノに新たな価値を宿らせる、河村さんの手腕が世界に認められた快挙といえます。



<https://www.progle-official.com>

## 梅田直希さんが手がけた大分県観光 PR 映像 CJPF AWARD 2026 ムービー部門グランプリ受賞

梅田直希さん（1部H24VD3A）が企画・デザイン・撮影・編集・監督を務めた大分県の観光PR映像『Discover Oita's Hidden Gems: The Art Edition』が、内閣府主催の「CJPF AWARD 2026」ムービー部門でグランプリを受賞しました。

本作は、大分県のアートや文化的側面に焦点を当て、その隠れた魅力を物語性豊かな映像美で表現した点や、地域ブランディングへの高い貢献度が評価されました。

欧米豪・アジア圏向けに展開される全4本の訪日外国人向けPR映像のうちの一編

（欧米豪向けのアート編）であり、4Kシネマティック映像を通じて、自然と文化

が融合する大分ならではの特別な体験を世界へ発信しています。



映像 URL : <https://www.youtube.com/watch?v=UJjiUIWW6gl>  
制作 : ENGAWA 株式会社

# より良い同窓会活動にしていくために「同窓会からの10の質問」



今デザインの仕事を  
していても、  
してなくても。

在校中でも、  
卒業して  
何年経っていても。

桑沢デザイン研究所 同窓会は、

これからもみなさんの『声』でアップデートされていきます。

より良い同窓会にしていくために、学校を離れてから感じるあなたの目線と感覚で、サクッと1分、あなたの意見を聞かせてください!!

上記の二次元コードより Google フォームにアクセスしてご回答をお願いします。

受験に、就活に、ポートフォリオ作成に  
お役立てください!

2026 年も  
夏期デザイン講座を  
開催します!



毎年ご好評をいただいております同窓会主催の「夏期デザイン講座」は、今年も8月に開催予定です。「デッサン」「色彩構成」「造形の基礎」の3つの基礎科目です。桑沢受験を目指す方、これからデザインを学びたい方、デザインに興味のある方にぜひおすすめください。高校生以上のどなたでも歓迎いたします。詳しくは6月に入りましたら同窓会の公式サイト、公式 SNS (Facebook、Instagram、X) にてお知らせしますのでご注目ください。

昨年 2025 年の夏期講座の様子

## 2025 年 秋の同窓会イベント報告

2025 年 10 月 11 日(土) 12 日(日)の桑沢祭に合わせ、同窓会主催の2つのイベントを開催。ご協力、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました!

### 「桑卒じん」 ZINE WORKSHOP

桑沢卒のクリエイター約30名からグラフィックデータをご提供いただき、それらをページ化したものを参加者が自由に綴じ、オリジナル ZINE に仕上げるという造形ワークショップを行いました。2日間で計150名が参加。在校生はもちろん、桑沢入学希望者や、OBOG など幅広い年齢層の方々にご体験いただき、ご好評を得ました。参加費無料。平均体験時間は15分から20分ほど。



### 「MMA」 OBOG フリーマーケット

桑沢卒の OBOG から出展希望者を募り、ご自分の制作物を展示販売する場を同窓会が企画・提供しました。出展した皆さまからは、自分の制作物を発表する良い機会になった、卒業生や在校生と交流し刺激を得たなど、多くの嬉しい感想をいただきました。出展者は2日間共通で35ブース。数百名にご来場いただきました。



また、2日目の各イベント終了後に、「OBOG & 在校生交流会」を行い、多くの皆さまにご参加いただき、貴重な交流の機会になりました。

## 2027 年度 専門学校桑沢デザイン研究所 推薦入学 (同窓会推薦) 募集のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も専門学校桑沢デザイン研究所より、同窓会に推薦入学募集の要請がありました。

つきましては、「自分の子供、孫、兄弟姉妹をぜひ、桑沢に入学させたい」と希望される方は、9月中旬までに同窓会事務局にご連絡ください。推薦入学関係書類をお送りいたします。

●募集人員：若干名 (総合デザイン科・昼間部/専攻デザイン科・夜間部) 推薦入学の試験は10月18日(日)を予定しています。

## 同窓生の皆様へ、歩みを止めない母校の近況をお届けします。

### 社会と連携した実践的な取り組み

近年、本校では社会と連携した実践的な取り組みを行っています。

2025年7月にUAE・ドバイにグランドオープンした「MARUGAME UDON」1号店にて、本校の授業課題を通じて学生がデザインしたユニフォームが、実際の店舗で採用・導入されました。桑沢での学びが、世界を舞台に形になっています。

また、渋谷を拠点とするデザインイベント「DESIGNART」の開催期間に合わせて、建築家の永山祐子氏やシブヤフォントの磯村歩氏らをお招きしたクロストークイベントを開催しました。学生はもちろん、プレス関係者やデザイン関係者が多く集まってくださいました。



上：UAE・ドバイにグランドオープンした「MARUGAME UDON」1号店の外観  
下：学生がデザインしたユニフォームを着て丸亀うどんを提供するドバイの人々



桑沢デザイン研究所 P1 スペースで行われたクロストークの様子

### 教育面での新たな挑戦

教育面でも新たな挑戦が始まっています。

市民に広く開かれた教育プログラム「KUWASAWA DESIGN STUDIO」を立ち上げ、第一弾として「メディア創造コース」を2025年度に開講しました。

続いて、2026年度には「イラストレーションコース」を開講します。

さらに、2027年度からは夜間部専攻デザイン科に「エクスペリエンスデザインコース」が新設されます。これは、人々の暮らしを広く「体験」として捉え、専攻分野の垣根を超えた桑沢の原点である「リビングデザイン」の思想を現代に再提起する意欲的な取り組みです。



身近な映像機材で表現の実験を行うメディア創造コースの学生



屋外に出てかすかな音の風景に耳を澄ますメディア創造コースの学生たち



アナログとデジタルを往復することの大切さを示す  
イラストレーションコースのイメージ

これからも新たな可能性を模索し続ける桑沢デザイン研究所へ、変わらぬご注目をお願いいたします。

## 畑秀樹さん 映像ショー「刻々」を上映

2025年に開催された大阪・関西万博にて、EXPOホール「シャインハット」の外壁面をプロジェクションマッピング作品で彩る映像ショーが開催されました。

世界中のクリエイターと並びその一つに選ばれたのが、桑沢の非常勤講師でもあった畑秀樹さん（1部H07L研イ住）の作品「刻々」でした。

タイトルの「刻々」には、時間の最小単位である「1秒」への畑さん

の思いが込められています。一人ひとりに平等に与えられた「1秒」という時間も、それぞれは全く違った表情を持っていて、視点によって見え方も変わる。そんな「1秒」の表情を、短い映像の中に表現しました。時計を思わせるシンプルな円形のパターンと色と光、そしてリズムカルに時を刻むサウンドが組み合わさり、心地よい調和を感じる作品となっていました。



<https://cocococo.main.jp/portfolio/expo2025/>

## 西村名穂子さん「DJ ROBOT OLIVE」としてパフォーマンス



東京都主催イベントでのパフォーマンスの様子



大阪・関西万博 会場内ポップアップステージ西にて  
織辺真智子 Instagram @olive.mime

2025年7月5日、大阪・関西万博にて、織辺真智子さん（本名：西村名穂子／1部H13L系PD3D）が「DJ ROBOT OLIVE」としてパフォーマンスを行いました。

彼女は、アップテンポな楽曲に合わせてロボットダンスとDJを融合させた独自のスタイルを披露。Y2K\*ファッションを彷彿とさせるメタリックな衣装を纏い、テクノロジーと人間性が交差する幻想的な空間を創り出し、観客を魅了しました。

彼女は、桑沢在学時代に触れたカルチャーを原点に、舞台、イベントやNHK番組、ドラマ出演など幅広く活動してきました。今回の万博出演は、「原宿の空気を夢洲に届けたい」という強い思いから、自ら企画書を作成し公募で勝ち取ったものです。今も彼女は時代に合わせて表現を更新し続け、活動の幅を広げています。

\* Y2K 2000年前後に流行したファッションやカルチャーの総称

## 増田敬子さん 制定60周年を迎える「文化財愛護シンボルマーク」



日頃私たちが何気なく見聞きしている国や県の文化財ですが、今から60年前、文化財愛護の気運を高めるためにシンボルマークが制定されました。

その制作に携わったのは、同窓生の増田敬子さん（1部39L3PK）です。

昭和41年（1966年）、文化財保護委員会（現・文化庁）は、シンボルマークの公募を新聞やラジオなどで広く呼びかけました。全国から寄せられた2,232点の応募作品の中から、亀倉雄策氏率いる審査

員の満場一致により、増田敬子案が選出されました。

このマークの制作意図は、文化財を愛護する意志を、両手を広げた形で表現し、それをパターン化したものを三つ重ねることで、国民の文化的遺産を「過去」「現在」「未来」へと伝承していく精神を象徴したものです。また日本建築の重要な構造体である「斗拱（ときょう）／ます組」をモチーフとして、文化財のイメージを表しています。1966年5月31日に制定されたこのマークは、今日に至るまで大切に使い続けられています。



両手を広げた形



## 出版のお知らせ



『どうして そうなった？  
モノのかたち事典』  
大崎メグミ  
(イラスト-1部H24VD3A)  
ポプラ社  
1,430円(税込)



『集まる日も  
この2皿さえあれば。』  
有元葉子 (1部37L2P)  
集英社  
2,200円(税込)



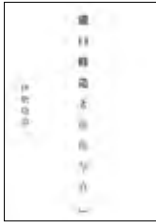
『旅の記憶 おいしいもの、  
美しいもの、  
大切なものに出会いに。』  
有元葉子 (1部37L2P)  
講談社  
1,980円(税込)



『そういうことなんだ』  
五味太郎 (2部42PDID)  
小学館  
2,750円(税込)



『五味太郎  
絵本クロニクル 1973-2025  
完全版』  
五味太郎 (2部42PDID)  
アノニマ・スタジオ  
4,400円(税込)



『瀧口修造と前衛写真』  
伊勢功治 (1部56L2B)  
作品社  
3,200円(税別)



『いえでします!』  
浜田桂子 (2部43基造C)  
理論社  
1,760円(税込)



『動物村で考える  
お金ってなんだろう』  
伊藤文人 (1部48L3GD)  
株式会社ニコモ  
1,430円(税込)



『The Power of Design  
and Convergence of AI』  
大松俊紀 (一部執筆)  
スペース分野専任教員  
CRC Press  
11,390円(税込)  
(為替変動有り)



『異境へのまなざし』  
吉永邦治  
(2部40PDイ住)  
南船北馬舎  
1,650円(税込)



『数えずの井戸』  
京極夏彦 (1部57L2B)  
中央公論新社  
5,500円(税込)



写真集『都市の軌跡』(復刻版)  
柳沢信 (1部32LA)  
roshin books  
6,600円(税込)



『紙工作の教科書』  
オタカマサキ (1部H09L研ID)  
新紀元社  
1,800円(税別)

## 受賞のお知らせ (学生は在校時)

- 神成紘樹 (2部 H30PD2) 第8回 JWTF 日本国際映像祭 観客賞 対象作品:「JIKON SAUNA -TOKYO- | 4K Cinematic SAUNA -english-」
- 花島平 (1部 49L 研ID) 第76回モダンアート展 スペースアート部門 優秀賞 対象作品:「未来は?」
- 伊藤文人 (1部 48L3GD) 2026 全国交通安全ポスターコンクール 内閣府特命担当大臣賞 自動車の運転者に呼びかける部門
- 神成紘樹 (2部 H30PD2) コクヨデザインアワード 2026 グランプリ 対象作品:「ノートの素」
- 生駒崇光 (2部 H21PD2D) iF DESIGN AWARD 2026 受賞 対象作品:「TATAMEL BIKE (タタメルバイク)」
- 梅田直希 (1部 H24VD3A) CJPF AWARD 2026 ムービー部門グランプリ受賞 対象作品:「Discover Oita's Hidden Gems: The Art Edition」
- 豊田亮 (2部 H13SD2) 第9回 Woody コンテスト 木製家具部門 入選 対象作品:「Tomo」
- 伊藤健 / 島田木の香 (昼間部ビジュアルデザイン専攻2年生) Japan Six Sheet Award 2025 コインチェック株式会社賞 対象作品:「暗号資産取引サービス「Coincheck」」
- 陳楠楠 (昼間部ビジュアルデザイン専攻2年生) 日本パッケージデザイン学生賞 2025 大賞 対象作品:「食べごろ動物園」
- 巖天媛 (昼間部ビジュアルデザイン専攻2年生) 日本パッケージデザイン学生賞 2025 金賞 対象作品:「糸を、本のように」
- 小林ななせ (1部 H29VD3B) 「TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2025」川島崇志個人賞 対象作品:「BLOATED MONSTRUM」
- 高橋亮子 (1部 2022PD3D) 香器デザインコンテスト 優秀賞 対象作品:「香雪」
- 河村侑 (1部 H25VD3B) Art Incubation NY 公募展 2025 秋冬 優秀賞 対象作品:「SONG OF STARDUST」
- シュウブセン (昼間部ビジュアルデザイン専攻3年生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025 協賛企業特別賞 特種東海製紙 対象作品:「まどろみ」
- 松村佳宙 (2部 2024PD2) 18th SHACHIHATA New Product Design Competition 審査員賞 大西賞 対象作品:「笛印鑑」
- 島中正太郎 (2部 2021PD2) 18th SHACHIHATA New Product Design Competition 準グランプリ受賞 対象作品:「hitohira」
- 岡田友香梨 (2部 2019VD2A) 南澤詩音 (2部 2021VD2B) TOPAWARD ASIA 2025 対象作品:「Terroir A (テロワール A)」
- 土井智喜 (2部 H19SD2) 比嘉丈偉 (2部 2023PD2) 2025 年度グッドデザイン賞 受賞 対象作品:「Rebbur」(分類:産業/公共機器部門)
- 森井ユカ (1部 60L2A) 2025 年度グッドデザイン賞 受賞 対象作品:「ニッポン 47 妖怪さんぽ」(分類:メディア/コンテンツ部門)
- 上妻森土 (1部 H28VD3C)、宮原慶子 (1部 H28VD3B) 第58回造本装幀コンクール 審査員奨励賞 対象作品:「コーヒーノキ to Nepal」
- Jikomi Kumagai (熊谷昂亮) (1部 2023PDD) 第2回 Tech Direction Awards R&D/プロトタイプ部門 Bronze 対象作品:「清澄製銀」
- 原田きらり (昼間部ファッションデザイン専攻2年生) GRAPHIC T-SHIRT AWARD 2025 グランプリ
- 長澤一樹 (1部 H28SD2E) サローネサテリテアワード 2025 最優秀賞 対象作品:「UTSUWA - JUHI SERIES」
- 小野哲郎 (6B=2部 H11VD2A) 山陰広告賞 2025 グランプリ 対象作品:「中村プレイス 創業50周年企画 準グランプリ 対象作品:「石見銀山デッサンドールズ プロジェクト」

誌面の都合により12月以前の個展・エキシビジョンの情報は、同窓会ウェブサイトをご覧ください。

五味太郎 絵本出版年代記展「ON THE TABLE」	12月12日～2月15日	東京・代官山 LURF GALLERY	五味太郎 (2部 42PDID/2012年桑沢特別賞受賞)
「モノのなまえ事典展」	12月13日～3月15日	愛知・岡崎市 おかざき世界子ども美術博物館	大崎メグミ (イラスト-1部 H24VD3A)
かわいちひろ個展「BETWEEN BEINGS」	12月16日～28日	東京・神宮前 ギャラリー・ルモンド	かわいちひろ (1部 H25PD3D)
「昭和100年パッケージ プロのデザイナーが考える、もしも昭和が続いていたなら？」	12月23日～30日	東京・渋谷 渋谷ヒカリエ 8/CUBE	永沼真一郎 (1部 H09L2A) 川路欣也 (1部 H04L研PK) 小川裕子、渡辺有史 (非常勤講師)
<b>2026年</b>			
新収蔵品展 井上耕一コレクション アジア&アフリカの〈あの坐り方〉	1月29日～4月4日	愛知・名古屋 南山大学人類学博物館	井上耕一 (1部 36L2A/2021年桑沢特別賞受賞)
今井雅洋個展「余語のとき」	1月6日～18日	東京・人形町 JINEN GALLERY	今井雅洋 (1部 48L3GD)
並木千香個展 特別な世界	2月4日～15日	東京・吉祥寺 一日	並木千香 (2部 H26SD2)
第6回印刷文化学会議『極秘的エディトリアルデザイン考』	2月21日	東京・神保町 出版クラブホール 3F ABC ホール	京極夏彦 (1部 57L2B)、祖父江慎 (非常勤講師)
カワイハルナ個展「FRAME WORKS」	3月5日～16日	東京・渋谷 888 ブックス/パールブックショップ & ギャラリー	カワイハルナ (1部 H25SD3E)
まにまに 千海博美・藤川佳代 2人展	3月9日～15日	東京・銀座 月光荘画室 1	千海博美 (1部 H16L系 3B) 藤川佳代 (1部 VD)
吉崎亜希個展「ここで」	3月16日～21日	東京・表参道 Pinpoint Gallery	吉崎亜希 (2部 2023VD2B)
showcase#3	3月17日～24日	東京・多摩川 GALLERY futari	かお (1部 2023VD3B)、玉城結羽 (1部 2023VD3A) 玉置淳 (造形分野専任教員) ナガトアタル (1部 63L研ID)、桑原敏行
金子辰也 ～ストーリージオラマの世界展～	3月20日～6月29日	高知・四万十町 海洋堂ホビー館四万十	金子辰也 (1部 50L2B)
小淵もも 花の絵と花瓶の展示	3月21日～4月11日	東京・京橋 はなぜん京橋 GALERIE	小淵もも (1部 38L3PK)
浜田桂子 新作絵本絵画展 「こころをときはなつて、いこう、ほんとうのばしょへ！」	3月23日～4月4日	東京・表参道 Pinpoint Gallery	浜田桂子 (2部 43基造C)
「あれもこれも」展	3月28日～4月4日	東京・渋谷 Gallery Conceal Shibuya	桑沢イラスト自主練部
滋賀県美術協会 第70回記念展	3月28日～4月5日	滋賀・大津 滋賀県立美術館	三原サダ子 (1部 48D3A) ほか
第76回 モダンアート展	4月2日～16日	東京・上野 東京都美術館	花島平 (1部 49L研ID)
音考：ギャラリー喫茶ピュアーズに於ける音のイメージ化の検討	4月4日～29日	東京・西浅草 Gallery Cafe Pure's	サイ・ショウキン、ソウセン、高橋怜、宮地信太郎 (2部 2024VD2)
村西恵津の「花と和紙と墨と」水彩画展	4月17日～26日	東京・大森 ギャラリー MIRAI blanc	村西恵津 (1部 55L2B)
長坂ピショップ大山 游刻展 VI	4月23日～28日	東京・新宿 柿傳ギャラリー	ピショップ康史 (1部 48L3ID)
藤安初枝・出口えり 2人展「euphoria」	4月27日～5月2日	東京・北青山 ギャラリーハウスマヤ	出口えり (2部 H28VD2A)、藤安初枝
<b>UPCOMING</b>			
<b>2026年</b>			
五味太郎絵本クニニクル展	4月11日～7月5日	佐倉市立美術館 2階展示室 千葉県佐倉市新町210	https://www.city.sakura.lg.jp/section/museum/五味太郎 (2部 42PDID/2012年桑沢特別賞受賞)
吉永邦治展「異境へのまなざし」	5月7日～12日 11:00～18:00 (最終日 16:00まで)	GALLERY 北野坂 神戸市中央区山本通 1-7-17 WALL AVENUW 3F 吉永邦治 (2部 40PD イ住)	
Artoys 展 2026	6月11日～16日 11:00～18:00 (最終日 16:00まで)	文房堂ギャラリー 千代田区神田神保町 1-21-1 花島平 (1部 49L研ID)、原千夏 (2部 H01PD2)、藤山鉄己 (1部 52L研ID)	
目と目、手と手 一 山田英幸の仕覆と横森美奈子の NEW 利休 Bag	10月10日～12日	月日荘 名古屋市中区瑞穂区松月町 4-9-2 1F 横森美奈子 (1部 44L2A)	

■ 訃報

● 往蔵福史仁さん (1部 47L3 イ住) 2025年9月16日逝去 享年74歳  
1995～2000年まで非常勤講師。T&Oスタジオ主宰 インテリアデザイナー。  
眠るように静かに息をひきとられたそうです。あまりに早いことでもとも残念です。  
9月24日通夜、25日告別式は桐ヶ谷斎場にて執り行われました。

● 戸村浩さん (1部 37L3ID) 2025年5月16日逝去 享年87歳 (別紙追悼特集記載)  
● 梅田正徳さん (1部 36L2A) 2025年11月7日 享年84歳 (別紙追悼特集記載)

同窓会事務局より

- 今回も同窓会ニュースの原稿を多くのみなさんよりいただきましてありがとうございました。仕事の報告、個展の案内・報告、コラム、受賞、出版情報などお知らせください。またデザイン関連以外のこと (例えば、ボランティア活動、自慢のコレクション、ショップ経営など) や若い人の活躍、地方のニュースなども大歓迎です。原稿をお待ちしております。次号 (194号) は 2027年 4月下旬に発行の予定です。(原稿締切 2027年 2月末)
- 同窓会名簿の充実のため、住所移転や同窓会ニュースの送付先変更などありましたら必ず同窓会事務局までご連絡ください。どちらも同窓会まで Eメールまたはファックスにてご連絡をお願いいたします。
- 旧住居表示のままの方は郵便物が届かなくなりますので住所変更をお願い致します。建物名を省略しておりますと届かない場合もございますので建物名もお知らせください。
- みなさんのお知り合いで同窓会ニュースが届いていない同窓生がおられましたら同窓会

までご連絡頂けますようお願いください。また、お亡くなりになられた同窓生に依然として同窓会からのお知らせや同窓会ニュースが届けられている場合は、ご家族の方から事務局へご一報頂ければ、配送停止の手続きをいたします。

同窓会の活動をご支援ください。

同窓会活動の継続と発展を目的として寄付金募集の案内をさせていただきます。ご協力をいただける方は記載のQRコードの手順に沿ってお手続きをお願いします。今後も引き続き同窓会活動へのご理解とご協力をお願いいたします。



問い合わせ先 桑沢デザイン研究所同窓会事務局

**KDS NEWS**  
dosokai  
2026 no.193  
2026年4月28日発行

桑沢デザイン研究所同窓会

150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17  
TEL 03-3462-4029 FAX 03-3462-4090

✉ info@kds-doso.net 🌐 www.kds-doso.net/  
📘 www.facebook.com/kdsdoso 📧 kuwasawadoso  
📷 kuwasawa\_dosokai

発行編集 桑沢デザイン研究所同窓会  
大槻高康 (1部 48L3GD)、田辺千晶 (1部 56L2C イ住)  
赤羽なつみ (1部 49L3PK)、八十島博明 (1部 59L研GD)  
もりいくすお (1部 60L2A)、細山歩 (1部 H13L系PD3D)  
宮代美佐江 (1部 57L研写典)、池田系 (2部 2021VD2A)  
田口智都子 (1部 H13L系PD3D)、佐古汐里 (1部 2023SD3E)  
デザイン GRID + 山田友香子 (2部 H25基礎造形)  
撮影 吉田仁 (1部 45L3写典)、雑賀吉人 (2部 H19VD2A)  
新保怜奈 (1部 H27VD3C) / 後藤和樹 (1部 H30PD3D) / 他  
校閲 本田理恵 (1部 H20VD3C)、伊草喜久江 (事務局)  
印刷 株式会社 アトミ